

オープンアクセスの現状

松下 茂 (株式会社サンメディア)

1. オープンアクセスとは

学術情報流通分野でのオープンアクセスとは、学術論文をインターネット上で無料公開し自由にアクセスさせる運動であり、出版の一形態である。オープンアクセスの背景には、学術コミュニケーションが学術研究成果の発表と流通のイニシアチブを握ろうとする志向の高まりがあり、それは図書館予算の削減や現状維持と一方での商業学術雑誌価格の高騰、寡占化への学術コミュニケーション側の危機感の表れでもある。したがって、オープンアクセスは SPARC や Plos などと相互連携を図っている。

またオープンアクセスは、インターネットの普及とともに e-Print 技術やアーカイブ技術の発展という環境によって促進されてきた。いまやオープンアクセスは、学術情報流通の一つの潮流となっている。

2. オープンアクセスの種類と現状

オープンアクセスの種類は、その出版と運営の母体別に大別すると、

- 1) 大学の図書館が機関内の研究成果をインターネット上に保管する(レポジトリ)アーカイブ
- 2) 新しいオープンアクセス(オンライン)ジャーナルとして非営利団体や出版者が創刊したもの

に分けることができる。さらにオープンアクセスジャーナルは、オンラインオンリーとして新しく創刊されたものと既存のオンラインジャーナルをオープンアクセスにしたものとの分けられる。

Eprints.org によれば、MIT の DSpace など大学が運営するオープンアクセスレポジトリは約 130 機関に上る。また、Free Medical Journals.com によれば 2004 年 3 月の時点で 1340 誌、また Directory of Open Access Journals(DOAC)では、同じく 2004 年 3 月時点で 774 誌が登録されている。これらの中には、BioMed Central、PubMed Central などのオープンアクセスポータルや Plos Biology など新しいビジネスモデルとして出発しているオープンアクセスジャーナルが含まれる。

3. オープンアクセスの運営と課題

オープンアクセスの運営は、投稿者(著者)による投稿料の支払いと公的・私的基金による運営でまかなわれようとしている。また有料のオンラインジャーナルの冊子体版発行などを通じた収益活動で財政的基盤を固める努力もされている。しかし、それだけでオンラインジャーナルが維持できるのかについて懐疑的な見方もある。またインパクトファクターの非対象誌、または低いインパクトファクター値のオープンアクセスジャーナルに、優秀な編集者や投稿者を確保できるのかという問題も残る。さらにオープンアクセスジャーナルの作成やその維持管理を誰が行い、将来へのアクセス保障をどうするのかという問題もある。

オープンアクセスジャーナルを支持することは、図書館員にとって自らオープンアクセスを作り上げる主体者になることを意味する。